

マンモグラフィ検査について

～乳がん早期発見の町づくり～



+
地域に密着した
医療を目指して

岩美病院 ニュース

問い合わせ先
岩美病院 事務局
☎73-1421

診療放射線技師 田村 登志雄
【マンモグラフィ精度管理中央委員会認定取得技師】

日本人の乳がん患者は年々増加傾向にあり、女性のがんでは胃がんを抜いて第1位となりました。早期に発見し治療するためにも、マンモグラフィ検査を受けることが大切です。

岩美町マンモグラフィ検診でも、要精密検査となり乳がんが発覚する方が毎年おられます。そこで今回は乳がん・マンモグラフィについて説明したいと思います。

Q 『乳がん』が増えていると聞くのですが？

A 2014年度乳がんを発症した日本人女性性は4万人を超え、乳がん死亡者数は13,240人と過去最高で、年々増加傾向にあります。

Q 『マンモグラフィ』とはなんですか？

A 簡単にいうと放射線を使って乳房内部組織を写真に写しこむ検査です。乳房は乳腺組織と脂肪組織から作られており、この中に異常がないかを調べる検査がマンモグラフィです。

Q 『乳がん検診』はいつ頃から始めて、どれくらいの間隔で検査を受けるのですか？

A 自治体によって異なりますが、岩美町では年度内に40歳を迎えられる女性を対象に検診の案内が届きます。

検診間隔は、2年に一度といわれており、町の検診案内も2年間隔で届けられます。
（*原則、岩美町では年度偶数年齢になります。）

40才以上の女性の方が受診資格者とあります。詳しくは検診事業を担当している岩美町健康対策課にてご確認ください。）

ただし、40歳未満、さらには男性の方でも、乳がんにかかる場合がありますので、気になりましたら医療機関にご相談ください。

Q 乳がんが発症しやすい年代とかはありますか？

A 30代から増加をはじめ、40代後半から50代前半までをピークとして発症し、徐々に減少していく傾向にあります。

Q 『マンモグラフィ』は実際にはどんな事をするのですか？

A 最初に担当技師による検査の内容と流れを説明します。

写真撮影は片方ずつ乳房を引っ張り、圧迫板という板で徐々に乳房を平らにしていきます。これにより、少ない放射線の量で乳房の中をより鮮明に見ることが出来ます。

Q 検査は痛いのでしょうか？怖いものでしょうか？

A 年齢・大きさ・形に関係なく、痛みには個人差がありますので、ほんのちよつと圧迫しても痛いという方や、どんなに圧迫しても痛くないという方がおられます。全体的には痛がられる方が多いですが、最大に圧迫している時間は5秒ほどですので、鮮明な写真を撮るために頑張っていたいでいます。

Q 恥ずかしいのですが・・・

A 乳がんの早期発見における10年生存率は80%近くですが、進行すると50%を下回ります。恥ずかしいというリスクより、早期発見という利点を優先していただけたらと思います。

Q 仕事もあり、時間がないのですが……。どれくらいで終わりますか？

A 受付↓検査↓外科診察↓終了ですが、外科外来の混雑具合にもよりますが、通常、病院に入ってから出るまで1時間程度です。

マンモグラフィ自体は着替えを入れて10分くらいです。

～最後に～

生涯を通して乳がんを発症する人数は、例えばアメリカ合衆国で8人に1人、そして日本では12人に1人が乳がんを発症しています。乳がん検診受診率は徐々に増加傾向にあります。乳がん検診受診率は、ヨーロッパと比べると、ほど遠い状況です。

乳がん検診とは、乳がんになっているかどうかを確かめる検診であり、乳がんになっていないことを確かめる検診でもあります。どうぞ乳がん検診を受けてみてください。

